1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2278100165		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム桜葉の家	ユニット名	1号館
所在地	静岡県浜松市北区細江町中川　4589番地の4		
自己評価作成日	平成２２年３月３０日	評価結果市町村受理日	平成22年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2278100165&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成22年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設のすぐそばを天竜浜名湖鉄道のローカル電車がのんびりと走り、近くを流れる都田川は浜名湖へと流れ、堤防沿いには桜並木があり春には姫様道中のお祭りで大変賑わいます。穏やかな自然に恵まれゆったりとした環境の中で、日常の散歩や買い物に努めています。散歩の途中には四季折々の果物が無人で売られていて、それを楽しみに散歩に出かける入居者様もいます。買った果物をまるで子供のようにしっかり抱えて満面の笑みでホームに帰って来られます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近くに桜並木や柿・みかんなどの畑があり、春には新緑が目に優しく秋には実った果物などが無人で販売されて散歩の楽しみともなっている。また施設の畑には野菜が作られ職員と一緒に収穫したり季節の移り変わりを感じることができる。年々利用者のレベル低下する中で、職員は「表情が明るくなるのが嬉しい」「いつまでも笑顔でいてほしい」との思いで入居者と接している。生活リハビリとして洗濯物干し・散歩を日常的に取り入れ利用者のために熱意を持って取り込む姿勢が確認できた。地域密着として災害時には施設の開放など地域の方々との協力体制について話し合われている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・職員会議等で理念の再認識をし、実践している。事務所・フロア内に掲示している。	「趣味で結ぶ地域の力」「楽しく暮らせる第2の我が家」との理念を掲げ「思いやり、心のゆとりが介護の源」として趣味活動を中心に支援するとともに館内に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との交流があり、児童が施設へ訪問し入居者と触れ合う時間がある。	自治会に加入して回覧板にホームのイベント情報などを掲載している。地域の小学生の体験学習で利用者と交流したり、子ども会の廃品回収が来てくれるようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回以上職員会議を行っている。県や市、連絡協議会の研修にできるかぎり出席をしている。実習生の受け入れもおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催しており、施設の状況の報告を行い、家族や地域の方の意見・要望等を伺うことにより、更なるサービスの向上に努めている。	昨年から2ヶ月に1回開催できるようになった。出席者や議事の内容などは細かく記録され、意見、要望等は職員会議で検討でき、今後に活かせるような工夫がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月開催されている、区の情報交換会に参加している。月1回、市の介護相談員の訪問を受け入れている。	区の担当者の運営推進会議への出席のほか、区の情報交換会の参加、グループホームだけの意見交換会に参加して区や他事業所との意見の交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会参加、職員会議にて、全職員が身体拘束をしないケアを理解し実践している。	職員全員が身体拘束をしないケアは理解しているが、建物の構造上玄関外にエレベーターと階段があるため玄関の施錠は行われている。入居時、家族・利用者に説明をし了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について全職員が理解し、常に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、理解する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の訴えを傾聴し、家族の施来設時には利用者や施設の状況を報告をしている。また、苦情相談窓口を常設し、市の担当窓口等を重要事項説明書に明記している。相談等あった場合は速やかに改善を図るようにしている。	家族の訪問時に話しやすい雰囲気を作って話を聞くようにしている。なかなか来られない家族には不定期ではあるが、お便りの「桜葉通信」に状況を記入して送付している。	家族の訪問時のみならず、常に意見や要望をもらえるように、「桜葉通信」と一緒にアンケートを入れるなどの工夫を期待したい。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回以上職員会議を開催し、職員の意見交換、提案の場を設けている。	毎月１回以上職員会議を行い、意見や提案の出しやすい雰囲気を作っている。また、ノートを用意して思いついた時にすぐに記入できるようにしてある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を勧めたり、自己研修レポートを提出させ自己啓発に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、法人内の入社時研修、半年に1回の研修を履行している。可能な限り、市や県等の開催する研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の情報交換会に出席し、交流の機会を持っている。お互いの意見交換等を図り、サービス向上に取り組んでいる		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の話をじっくり聞くことにより安心していただき、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えを聞き入れ、入居相談される方が同じ悩み等を持っていることを伝え、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望等を聞き入れ、利用者に合った支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に一緒に過ごすことを心掛けており、様々な事に共感を持つことで、学んだり支えあう関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望等を傾聴し、状況の報告をし、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人との面会や手紙のやり取り、電話等支援している。	今まで住んでいた近所の知人が面会に来たり、家族と一緒に自宅に出掛けたりしている。友人に手紙を出したり、電話をする入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味活動等を通じて、関わりを持っていただいたり、気の合う同志の団らんの場面作りをし、孤立しないよう職員が配慮している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も訪問してくださる方がおり、花壇の手入れをしてくださったり良い関係が保たれている。関係を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を伺い、自由に安心して過ごしていただいている。困難な場合は状況に合わせて支援している。	今までの生活歴などを家族や本人から聞き取りし、希望や意向の把握に努めている。困難な利用者にはコミュニケーションや行動観察を大切にし、個々のサインを見逃さないよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、今までの生活暦や生活環境等を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行いながら、把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や関係者が参加して担当者会議を開催し、意見や要望、現状に反映した介護計画を作成している。また、状況に応じて、その都度見直しを行い、新たな計画を作成している。	職員や家族が参加して担当者会議を行い、家族・本人の意向に沿って介護計画の見直しを行っている。定期的な見直しの時期以外にも、身体的変化や状況変化など、利用者の状況に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに、個別の介護記録を具体的に記入しており、情報の共有をしている。介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・要望に応じて、柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や介護相談員の訪問を受け入れている。様々の方に協力をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への定期受診、往診を受けたり、希望される医療機関への受診を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられ、家族の都合も柔軟に対応されている。訪問診療に来て貰う事も出来、複数の医療機関と関係を密に結び助言や情報が家族へ詳細に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、訪問看護を受けている。1フロア1時間をめどに利用者の健康状態のチェックや本人の相談に応じ、変わったことがあれば、主治医に情報を提供して指示を得たり、緊急時の訪問にも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や主治医、看護師との情報交換や相談等連絡を取り合い、早期退院に向けた協働を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医と相談を行っており、全員で方針を共有している。	看取り経験があり、状況の変化や終末期に向けては家族や医師と話し合い方針を決めている。ベテラン職員が不安の無いよう状況把握といつでも対応できるような体制がとられ、重度化に対応できるバックアップ施設があることも家族の安心を得られている。	重度化する利用者に対応する職員の心構えとして対応指針を確立し、研修を重ねて全職員が不安のない看取りが出来るよう、また家族との意思確認書の取り交しがされることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、職員全員が定期的に勉強会に参加したり訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の緊急連絡網を作成し、防災訓練・避難訓練を定期的に行っている。また、職員会議時、緊急時の対応・設備の使用方法等話をし、運営推進会議においては行政や地域の方々とも話し合っている。	定期的に訓練が実施されている。ホーム内の通路の確保や災害用備品の備蓄も用意されている。運営推進会議にて地域の方々とホームとのお互いの協力体制について話し合いが行なわれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような声かけや対応がないように、職員同士でも注意している。個人情報保護に努めている。	その人にあった声掛けや尊厳を大切にした支援を心掛けている。記録等個人情報に関する物は適切に管理され、職員同士も個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の顔を見ながら声かけ対応している。話をゆっくり聞きながら、短く分かりやすく説明をし、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を伺いながら、本人のペースに合わせ、保てるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じている。家族が支援してくだっさたり、職員が付き添いを行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を伺い提供している。準備は困難だが片付けは一緒に行っている。	外注の食材を2食利用し、皿に並び替えられている。毎週日曜日は希望を聞き入れた献立が食卓に上る。利用者と採ってきた畑の野菜を調理し、旬を楽しんだり嗜好調査から選択されたメニューが月１回行事食として提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量、食事形態、介助方法等の状態を把握しており、一日に必要な摂取量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後等、口腔ケアを行っている。一人一人の状態・能力に合わせている。できる方は見守りや声かけをし、できない方には介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自然な排泄ができるよう、排泄チェック表を活用して一人一人の排泄パターンを把握し、定期的に声かけを行いトイレ誘導・介助を行っている。さりげない声かけを心掛けている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合った支援がされている。失禁などの対応はさりげなく部屋やトイレに誘導し尊厳を大切にした支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行っている。散歩や体操、水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて行っている。一人ずつゆっくり入浴できるよう支援している。	希望される利用者は毎日入浴を楽しんでいる。拒否のある利用者はほとんどなく利用者全員が入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣やペースに合わせ、自由に休息していただいている。寒冷期は湯たんぽ等を使用し安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己管理できる方以外は職員が管理している。一人一人が何をどのくらい服薬しているか、その目的、副作用のリスク等、主治医の指示書を読み理解している。日々の変化等に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の能力に応じ、掃除、ゴミ出し、洗濯干し、食器拭き等の家事を一緒に行なっている。また、家族から本人の好きだった事を伺い、歌をうたったり、ゲームやレクリエーションを行って楽しく生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課である散歩や洗濯干し等で戸外に出ている。 買物等希望があれば外出している。	生活リハビリとして散歩や洗濯物干しを日課として行なっている。買い物等希望があればその都度対応され、希望がなくても買い物時に声掛けして気分転換の場を提供している。今年の花見はタクシーを利用して色々な場所の桜を見学した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は所持されており、買物の時には支払をされている。ほとんどの方が自己管理は困難な状況であるが、職員が付き添って散歩に出た折に、無人販売の果物を買うなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけたり手紙を書いたり、職員が付き添い等援助を行っている。家族に了解を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、テーブル・ソファー等の調度品を備え、壁には四季折々の季節感があふれる切り絵や写真等飾っている。利用者が居心地良く快適に生活できるよう工夫している。	南面の窓からはローカル電車がのんびり走り、緑さわやかな柿の葉が見られる。居間には一人ひとりがゆったり座れるテーブルで職員との会話やトランプを楽しんでいる。壁面には職員との協働作のちぎり絵や写真が飾られ季節感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では定位置を決めておらず、一人一人が思いおもいに過ごせるよう職員が声かけ等を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家庭等で使用されていたものや馴染みのあるものを持ち込んでいただいており、今までと同じように過ごしていただけるよう配慮している。	その人の希望に添った窓や頭床部へのついたて、使い慣れたテレビや写真が置かれている。調査日当日、ある利用者は自分の部屋を綺麗に掃除し、見てもらうのだと調査員を迎えてくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手摺を設けている。床はバリアフリーで段差を無くしており、安全に配慮している。また、居室の入口に、自作の創作物を飾ったり、名札を貼り、分かるようにしている。		